

優秀賞 「Under One Roof」

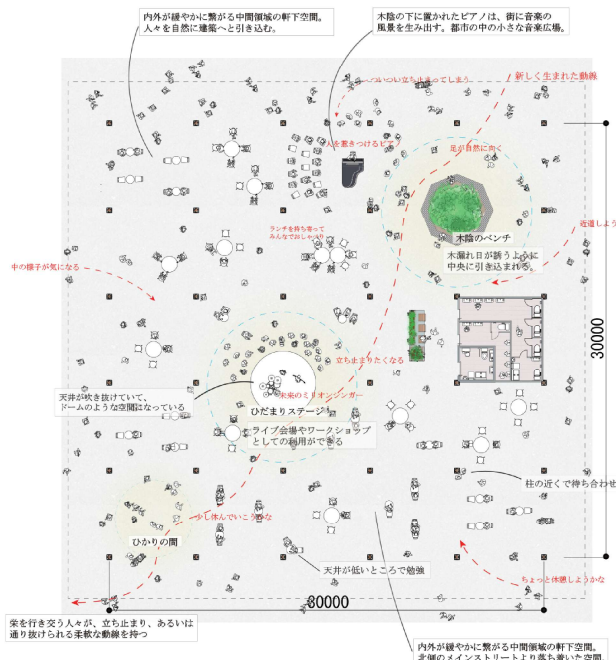


設計趣旨

都市と緑が交わる駅前広場に、誰もが自由に集い過ごせる木造建築を提案する。105mm角の材を縦横に積層した架構による大屋根は、下から木の構造が見え、細やかな陰影と柔らかな光を生み出すことで、都市の中に木の温もりと落ち着きをもたらす。屋根の下では、休憩やイベント、偶発的な出会いなど多様な行為が自然に重なり、時間の流れとともに広場に新しい表情とリズムを生み出す。高低差やスケール感の違う架構は、人々の動きや立ち止まる瞬間に合わせて落ち着きのある空間と賑わいの空間をつくり出す。木造ならではの連続する材の美しさと構造の純粋さは、都市に木の生命感をもたらし、木目を通して太陽や水の恵みを受けてきた木の魅力を伝えることで、人々に「リラックス効果」や「親しみやすさ」を与える。栄を行き交う人々が立ち止まり、語り、あるいは通り抜ける。その一瞬一瞬が、木の架構による高さの変化とともに穏やかに包み込まれ、都市の中に新しい“木陰”のような空間を生み出すことを目指した。

社会背景

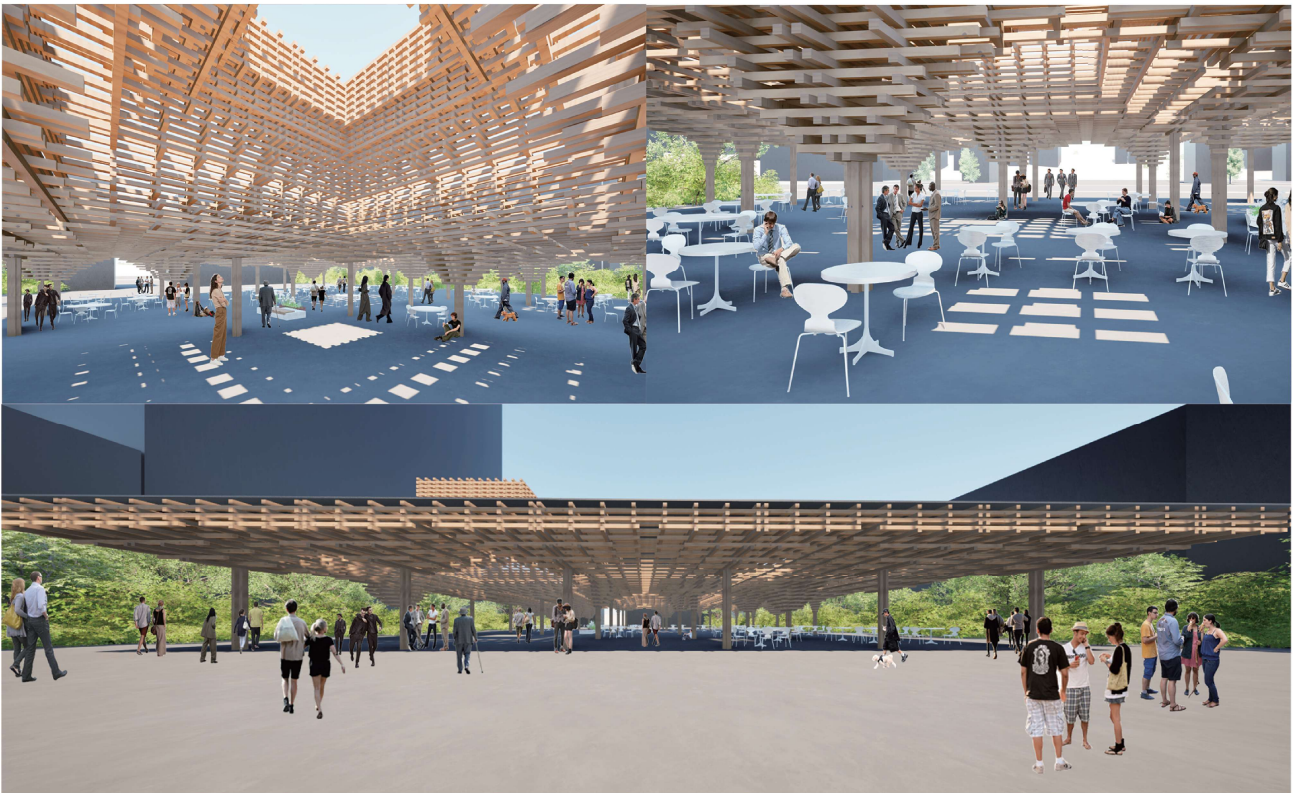
公共建築のような大きな空間は、これまで鉄やコンクリートでつくられてきた。公共建築物の木造率は年々増加しているものの、依然として全体の15%に満たないのが現状である。耐火性や構造性能の課題から、木造は「小規模建築の素材」として扱われてきた。しかし、気候変動への対応や地域資源の循環が求められる今、木造が担うべき役割は大きい。愛知県の森林の6割を占めるスギ・ヒノキの人工林は成熟期を迎え、都市の中心に新たな木の風景をもたらす可能性を秘めている。再整備が進むエリアの広場に木造の大屋根をかける本計画は、都市の象徴的空間を木でつくることへの挑戦であり、木造が公共空間を支える新しい時代の始まりを示すものである。



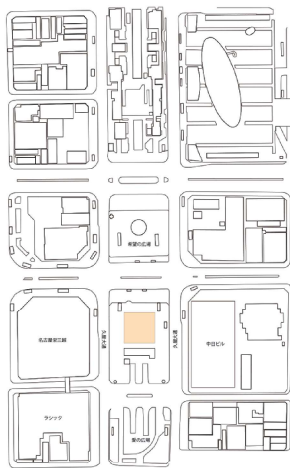
1階平面図 (S=1:300)

延べ床面積 900 m²





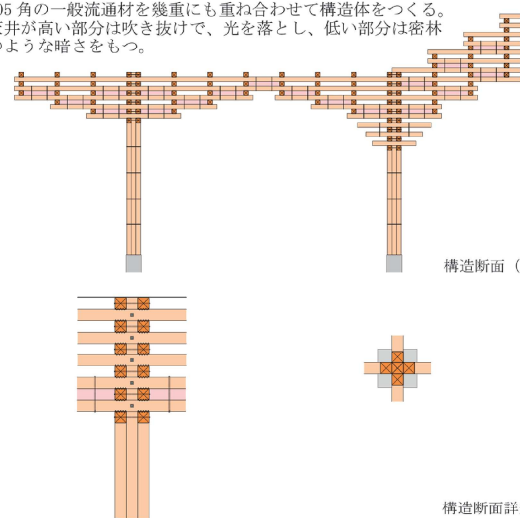
敷地配置図 (S=1:5000)



敷地は、栄駅から徒歩4分、名古屋都心・栄の100m道路「久屋大通」の中央帯にある公園の南部分、中日ビルの横に位置する〈久屋大通南エリア・サカエヒロバス〉とする。この場所は、都心の賑わいと緑豊かな公園空間が交わる久屋大通南エリアの起点にあたり、街を象徴するメインゲートとしての役割を持つ。周辺には商業施設やオフィスが立ち並び、人の流れが絶えない一方で、中央帯の樹木や芝生広場がつくる緑の軸線が、都市の中に穏やかな時間をもたらしている。このような都市と自然の境界に位置する場所に、地域の木材で構成された象徴的な木造建築を計画することで、名古屋の都心に木のあたたかさや環境への意識を発信する拠点となることを目指す。

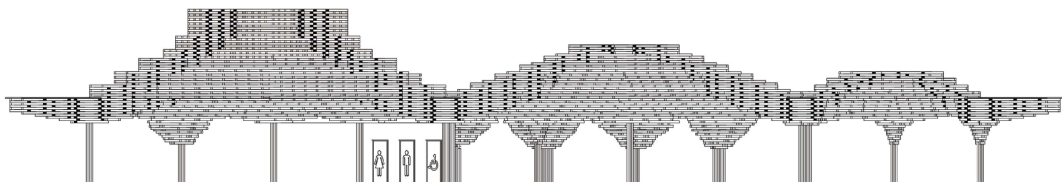
重ね梁構法

105角の一般流通材を幾重にも重ね合わせて構造体をつくる。天井が高い部分は吹き抜けで、光を落とし、低い部分は密林のような暗さをもつ。

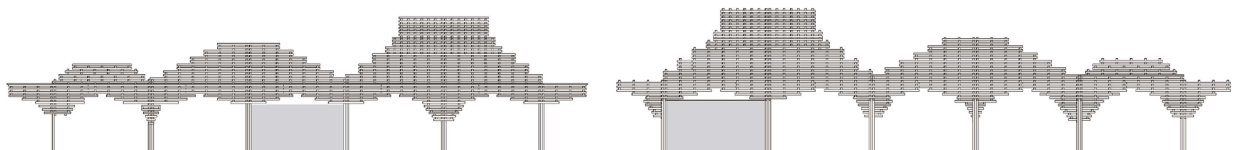


構造断面 (1:100)

構造断面詳細 (1:40)



断面図 (S=1:200)



東立面図 (S=1:300)

北立面図 (S=1:300)